



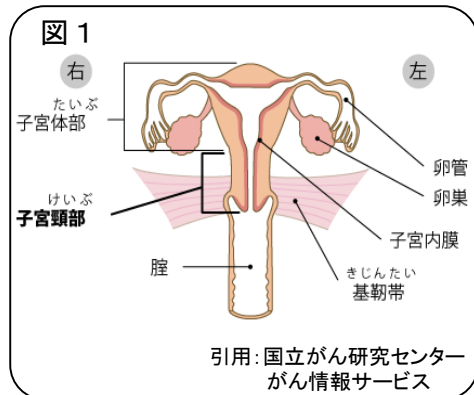
秋田市の子宮頸がん検診を受けるかたへ

20歳を過ぎたら、定期的に子宮頸がん検診を受けましょう！

子宮頸がんとは

子宮は、妊娠をしたときに胎児を守り育てる臓器です。子宮頸がんは、子宮の入口の「子宮頸部」にできるがんです。(図1)

初期の段階では、ほとんど自覚症状がないので、定期的に検診を受けることが重要です。初期の段階で発見し、治療することで、その後の妊娠・出産が可能になるといわれています。

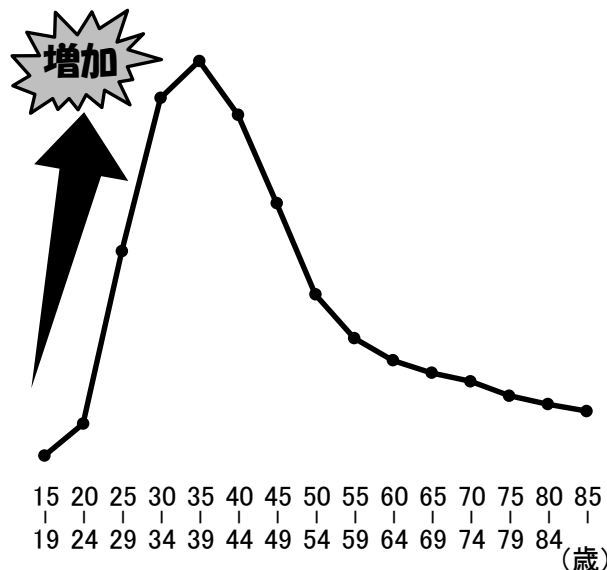


引用: 国立がん研究センター
がん情報サービス

図2 子宮頸がんの年齢階級別罹患率 (令和元年)

子宮頸がんは、20歳代前半から上昇し始め、**25歳以降は急激に上昇し、30歳代でピークに**達します(図2)。

年間では、約3,000人のかたが亡くなっています。



参考: 政府統計の総合窓口e-Stat 全国がん登録罹患数・率

子宮頸がんの原因は、ウイルス

子宮頸がんの主な原因は、「ヒトパピローマウイルス(HPV)」の持続的な感染が関与しています。

HPVは、性交経験者であれば誰でも感染し得るウイルスです。体の免疫力で自然に排除されることが多いですが、発がん性の高いHPVの感染が長期化すると、子宮頸がんを発症する可能性があります。

子宮頸がん検診の流れ

子宮頸がん検診受診
(子宮頸部の細胞診)

※希望者に超音波検査も実施

約6週間後、秋田市から結果を
ご自宅に送付します

異常なし

今後も、定期的に検診を受けましょう。

子宮頸がんの中には急速に進行するがんもありますので、定期的に受診してください。

- 20～39歳のかたは、毎年
- 40歳以上のかたは、2年に1回(偶数歳)

要精密検査

自覚症状がなくても、精密検査を必ず受けましょう。

精密検査では、コルポスコープ(膣拡大鏡)を使って詳しく見ます。異常な部位が見つかれば、組織を採取し、悪性かどうかを診断します。

また、HPV検査を行い、コルポスコープ検査が必要かどうかを判断することもあります。

保険診療になります

※精密検査結果は、精度管理のため秋田市と子宮頸がん検診を受診した機関にも情報が共有されます。

子宮頸がんの予防のポイント

子宮頸がん予防ワクチン **無料**

このワクチンは、接種することで免疫を作ることができ、HPVの感染を防ぐことができます。

■ 定期予防接種対象年齢

12歳となる日の属する年度の初日から16歳となる日の属する年度の末日までの間にある女子
(対象年齢から外れていても有料で受けることはできます)

- HPVワクチンの積極的勧奨の差し控えにより接種機会を逃したかた(平成9年度から平成18年度生まれの女性のうち、HPVワクチンの予防接種を完了していないかた)に対して、公平な接種機会を確保する観点から、あらためて接種の機会をご提供しています(実施期間は令和7年3月31日まで)。
詳しくは、秋田市保健所健康管理課のホームページをご覧ください。

秋田市 予防接種 ワクチン で検索

コンドームを正しく使用しましょう

HPVは、性交渉で感染する性感染症のひとつです。コンドームは、HPV感染を防ぐ有効な手段です。また、他の性感染症予防にも役立ちます。



たばこを吸わないようにしましょう

喫煙により、子宮頸がんになるリスクが上昇します。



Check! こんな症状に要注意!

- 月経でないのに出血がある
- 性交渉時の出血などの不正性器出血
- 茶色や褐色のいつもと違うおりものが増える
- 下腹部および腰の痛み、性交中の痛みなど

子宮頸がん検診で「異常なし」であっても、左記のような症状がある場合には、次回の検診を待たずに早めに医療機関で診察を受けてください。



定期的に検診を受けましょう

～ 早期の子宮頸がんは、自分ではまず気づきません ～

子宮頸がん検診では、細胞を調べることにより、がんになる手前の状態(前がん病変)で発見が可能です。自覚症状がなくても定期的に検診を受けることが重要です。

子宮頸がん検診(細胞診)は、死亡率の減少効果があると国が認めている有効な検診ですが、必ずがんが発見できるわけではありません。また、がんでないのに「要精密検査」となる場合もあります。

若い女性に発症するがんだからこそ、

20歳から子宮頸がん検診を定期的に受けてください。



問い合わせ先 : 秋田市保健所 保健予防課 TEL 883-1176~1178

【インターネットで検索】

秋田市 子宮

検索

